

【参考資料 1】

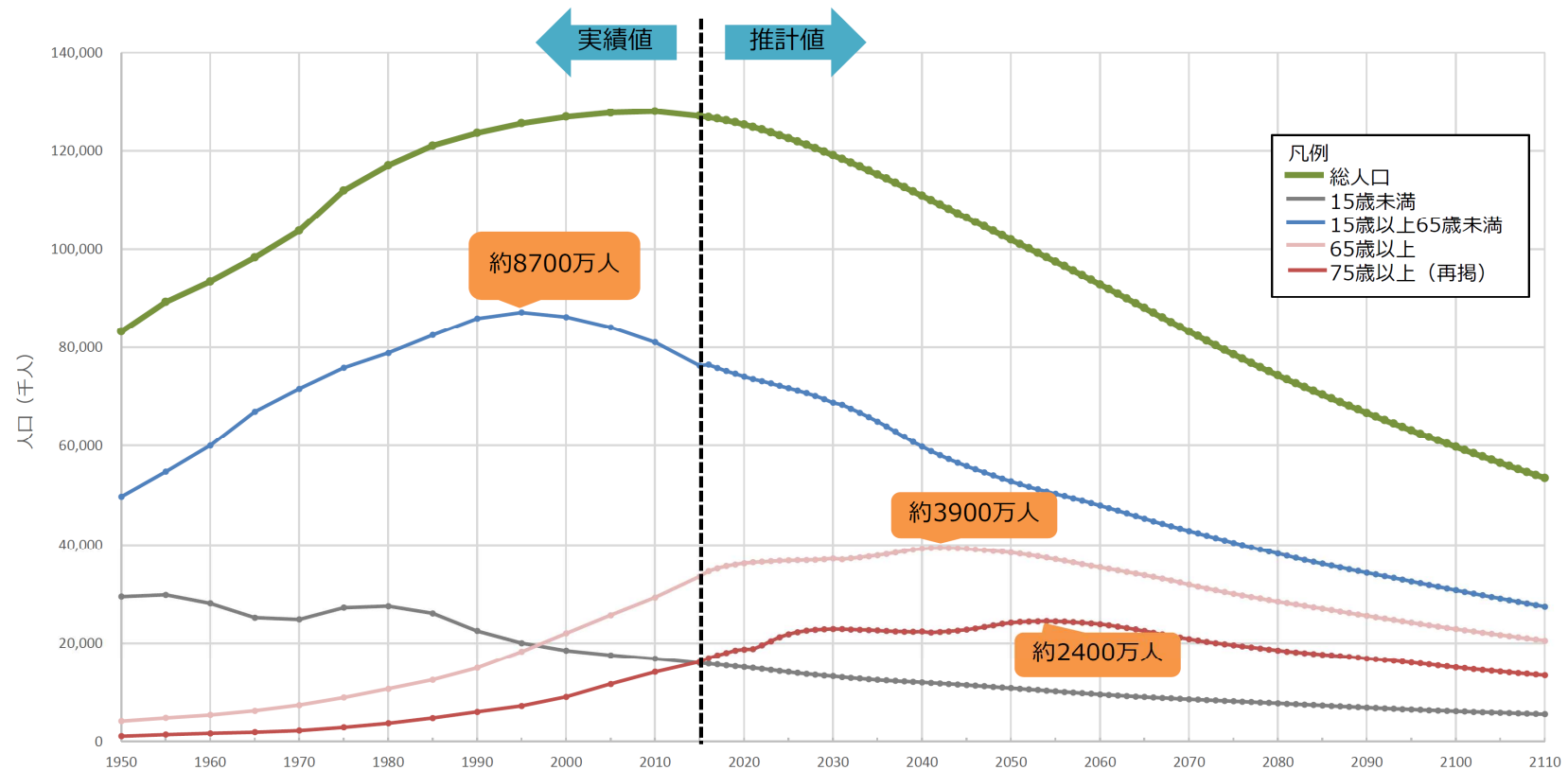
今後の人口動態について

岩出保健所

令和 5 年 3 月 1 6 日

人口動態① 2040年頃に65歳以上人口のピークが到来する

- 我が国の人口動態を見ると、現役世代（生産年齢人口）の減少が続く中、いわゆる団塊の世代が2022年から75歳（後期高齢者）となっていく。
- その後も、2040年頃まで、65歳以上人口の増加が続く。



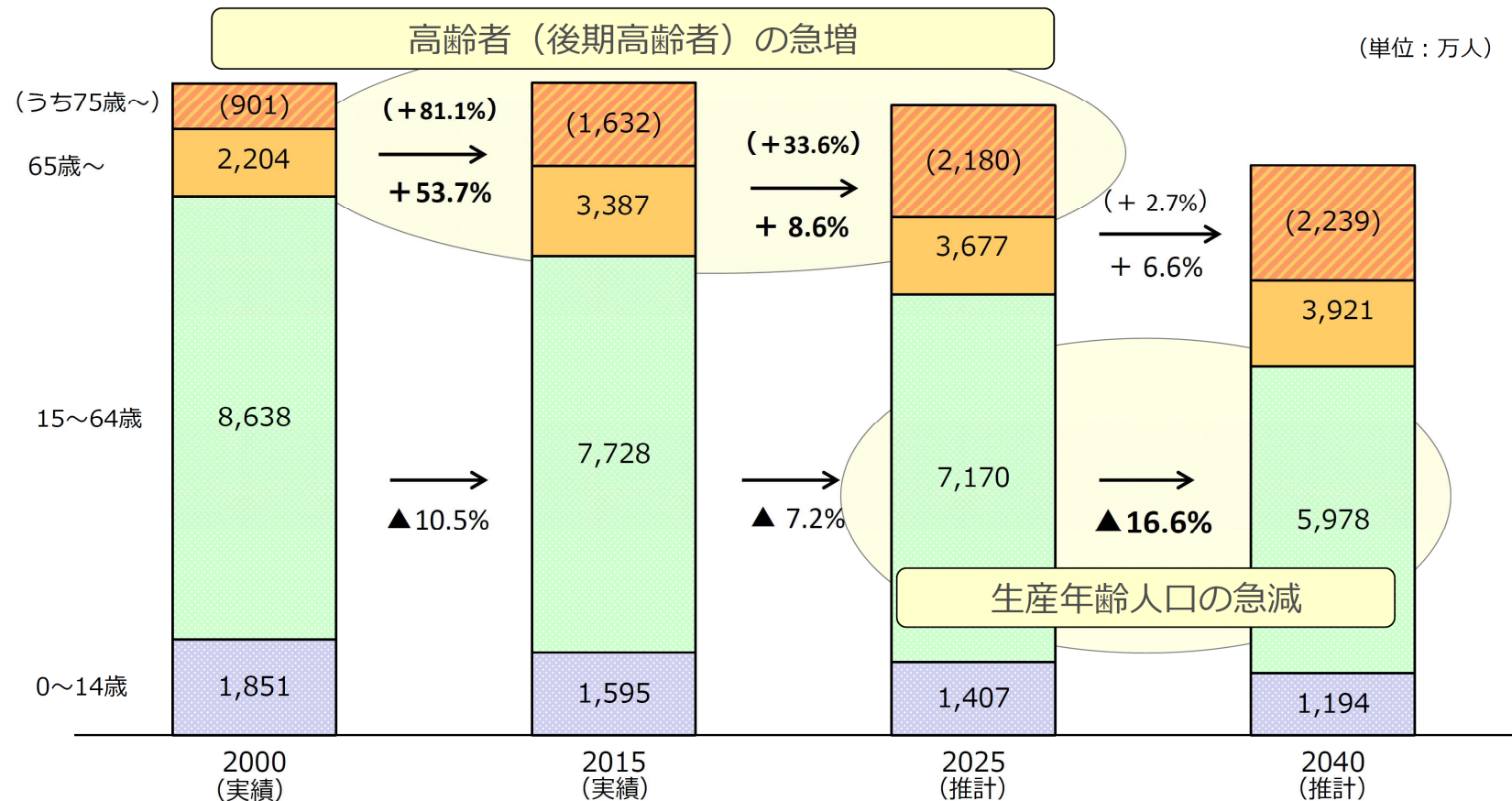
出典：国立社会保障・人口問題研究所「年齢（4区分）別人口の推移と将来推計」「総数、年齢4区分別総人口および年齢構造係数」

※ 2015年までは国勢調査の実績値、2016年以降は推計値。

人口動態② 2025年以降、「高齢者の急増」から「現役世代の急減」に局面が変化する

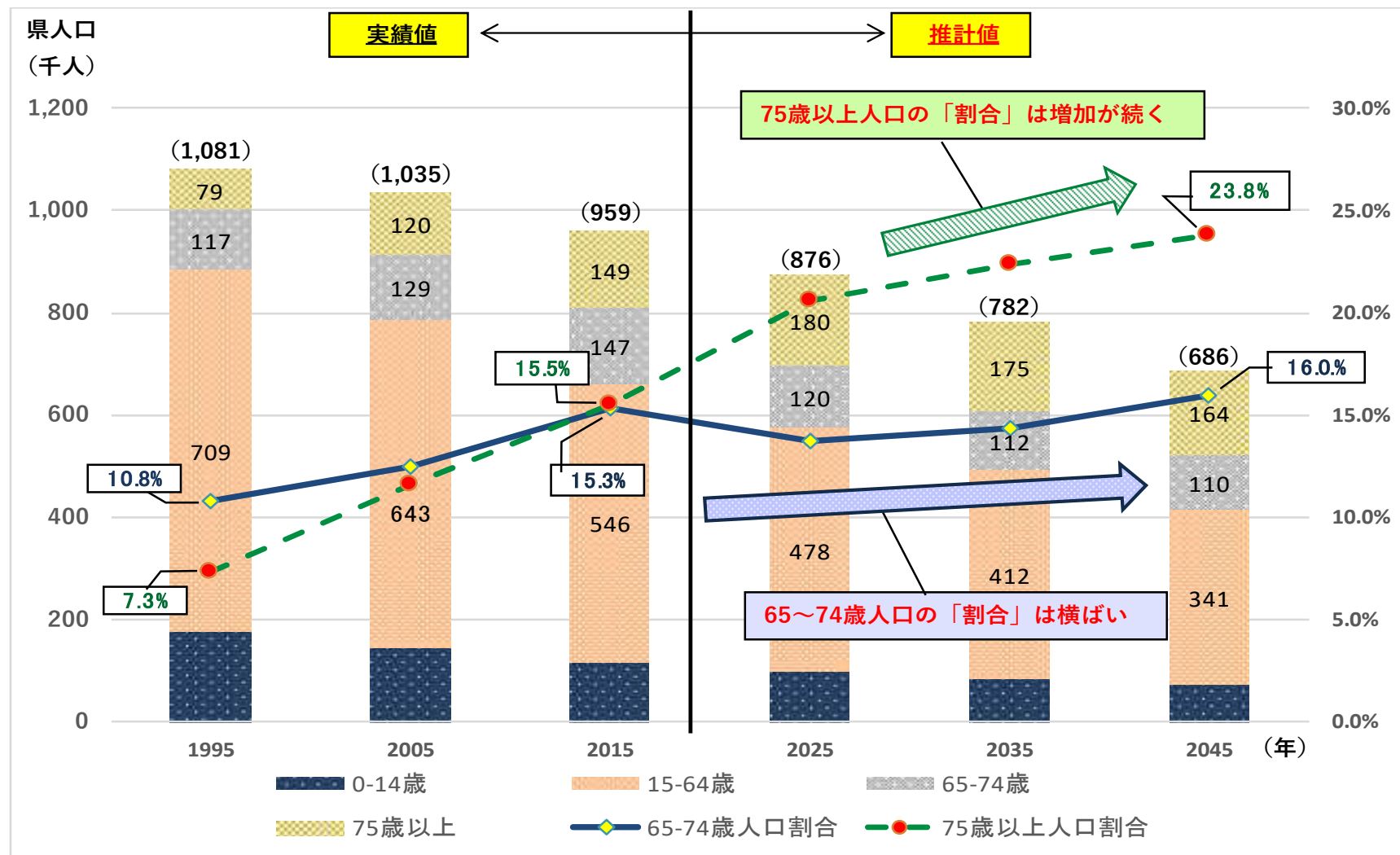
- 2025年に向けて、高齢者、特に後期高齢者の人口が急速に増加した後、その増加は緩やかになる一方で、既に減少に転じている生産年齢人口は、2025年以降さらに減少が加速する。

【人口構造の変化】



人口減少と後期高齢者の増加は確実に起きる（和歌山県の将来推計人口）

- 既に「0～14歳」、「15～64歳」の人口（数）は減少
- 「65～74歳」の人口（数）は今後減少
- 後期高齢者「75歳以上」の「割合」は増加が続く



和歌山医療圏の人口推計と高齢者割合（推移：2020～2045）

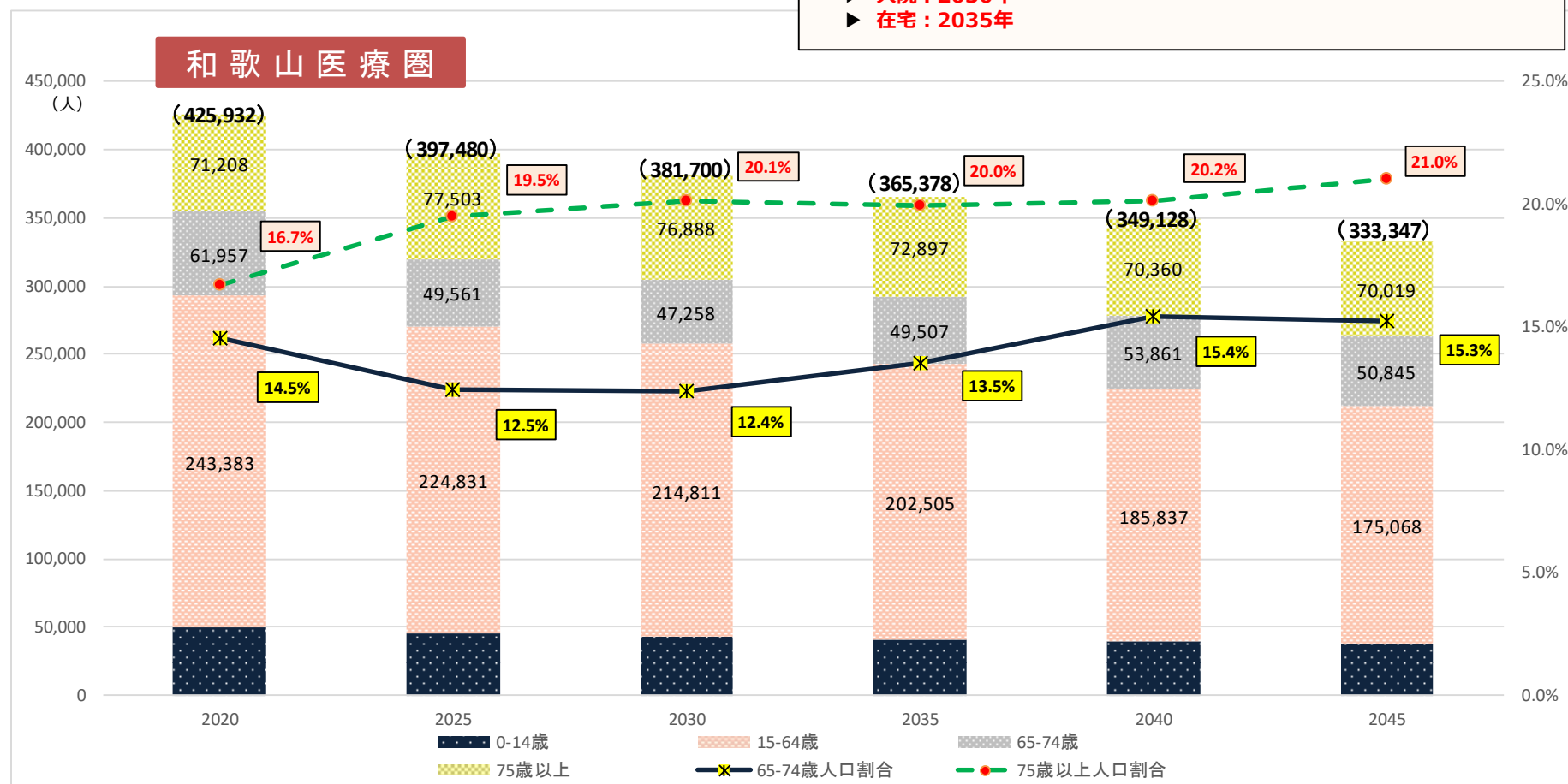
特徴

2030年以降全ての世代で人口が減少。
ただし、2035年と2040年の65-74歳は第2次ベビーブーム世代の影響で増加。

今後

将来、人口減少が進む中で、高齢化率が増加すると、身体が不自由な方が増え、病院へすぐに受診できない人が増加。厚労省の推計によると、「和歌山医療圏」の外来・入院・在宅の患者数のピークは次の通り。

- ▶ 外来：2015年以前（ピークアウト）
- ▶ 入院：2030年
- ▶ 在宅：2035年



出典：厚生労働省「医療計画作成支援データブック(令和3年度版)」